

平成28年度第1回教育自立圏検討会議 会議録【概要版】

日 時：平成28年4月26日（火） 午後2時30分～午後4時30分

場 所：中央公民館岩木館2階 大ホール

出席者：裾野中学校：校長 太田智之 裾野小学校：校長 小山内剛
第三中学校：校長 荒谷一昭 文京小学校：校長 工藤信敬
石川中学校：教頭 東海孝尚 石川小学校：校長 内田貴士

東目屋中学校：校長 佐藤浩一 東目屋小学校：校長 玉田嘉昭
大成小学校：校長 佐藤昭 第三大成小学校：校長 高橋眞弓
弘前地区小学校長会：会長 齋藤治（福村小学校）

教育部長：野呂忠久

理事兼学校教育推進監：櫛引健

教育政策課：課長 鳴海誠 学務健康課：課長 後藤千登世

生涯学習課：課長 戸沢春次

学校づくり推進課：課長 宇庭芳宏、課長補佐 早坂謙丞、主幹兼係長 種市穂、主査 千葉大慎

学校指導課：課長 奈良岡淳 教育センター：所長 石川みどり

○議事

(1)教育自立圏の構築に係る調査研究について

No.	質問や意見の要点	回答内容等
1	学校運営連絡協議会は、学校評議員制度からの移行を前提に構築することであるが、今年度は評議員制度はそのまま残るのか。	そのまま残ることになる。
2	中学校区での学校運営連絡協議会の開催は、その中学校区で一堂に会するイメージなのか。	一堂に会する機会があれば良いと考えている。小学校が複数ある中学校区の会議のあり方を検討していく必要がある。
3	学校評議員は年4回実施しており、実際に授業を見てもらい意見をもらっている。合同開催であると全ての学校を見ることとなり大変である。まずは各学校で実施してみることから考えている。	合同開催を含め、効率的な開催の仕方を作業部会等で検討していく必要がある。
4	最終的にいつまでに何をどうするのか見えてこない。	各学校で事情が異なるので、一律に進めることは考えていない。完成度を徐々に高めるスタンスである。概念を広く捉えるために「システム」という言葉をつけている。

No.	質問や意見の要点	回答内容等
5	小中一貫教育システムとCSを構築する他に、何故今「ひろさき厩(まんじ)学」に取り組むのかが理解できない。既に学校では地域学習を実施しており、授業の時間がない。ひろさき厩(まんじ)検定にも疑問がある。	検定は点数を付けるのが目的ではなく、弘前を知ってもらうことが目的である。今の意見に配慮しながら進める。
6	これからは英語や道德の教科化の対応がある。その中でひろさき厩学に取り組むのは難しい。	既に各学校で総合的な学習の時間などで、地域学習は十分に行われていると実感している。
7	ひろさき厩学については、既に学校で取り組んでいることを洗い出し、整理して当てはめるイメージであれば無理が無いのではないか。	【意見等】
8	共通部分を「りんご」「お城」などにし、各学校は地域の特色を生かした内容にするという小中一貫教育であれば良い。先進事例を参考にすると、9年間のカリキュラムといっても算数や数学などは大変である。郷土学習は比較的やりやすい。	【意見等】

(2) 専門部会の設置について

※質問や意見等特になし

(3) 調査研究のスケジュールについて

No.	質問や意見の要点	回答内容等
9	作業部会は一同に会してやるということだが、中学校区での担当者の打合せは必要ないか。	まず全体で会議をして、その後30分でも中学校区の話合いの時間を設けたいと考えている。時間が足りない場合は、それぞれの中学校区で個別に打合せをお願いしたい。
10	原案を市教委で作って作業部会で揉むイメージと理解した。スケジュールからすると今年度で制度を作って、来年度実施することになるのか。	2年間の調査研究期間で早く作っていきたいという思いはある。資料には28年度中は(案)という文字を入れている。部会で検討していく中で(案)を取っていく。先進校の情報も提供しながら進めたい。

○事務連絡